



紙に纏わる物語

岩井俊二

私事だが、今年はずっとの映画作品が公開された。このコロナ禍の二〇二〇年にまさか新作を三つも公開することになるとは思わなかった。一月に『ラストレター』、七月末から『8日で死んだ怪獣の12日の物語』、そして九月からは『チイファの手紙』と、『ラストレター』は自ら書いた原作を元に日本と中国で作った、いわば姉妹のような作品である。僕にとっては同じ物語を異なる国々で撮影し上映する、という未踏のチャレンジでもあった。一九九五年の作品『ラヴレター』以来の手紙をモチーフにした作品でもあった。

手紙を書く。手紙を読む。

フェルメールに『窓辺で手紙を読む女』という絵があるが、手紙に纏わる人の佇

まいは、なんとも美しい。叙情的である。それは、手紙というコミュニケーション手段が実に叙情的であるからだろう。撮影しながら、何度かため息が漏れた。しかしこの二十一世紀に手紙を書く物語は容易には作れない。主人公がスマホを壊してしまう、というアクセシビリティから物語をスタートするアイデアがある日、思いついた。それがなければ、『ラストレター』も『チイファの手紙』も存在しなかっただろう。

この約十年で様々なものがスマホという魔法の装置に吸い込まれた。スマホでやれる様々なことの多くは、十年以上前には他の何かでやっていたことである。我が身を振り返っても、紙の使用量は激減した。年末に作業場を大掃除する時に大量に捨てていた台本の下書きや紙資料の類はゼロに近いくらい出なくなってしまった。電子書籍は思ったほど普及していないように思うが、個人的には毎年買う紙の本は一割以下だろう。

そんなわけで最近では減多に紙に触れない生活だったが、思わぬところで新しい



いわい・しゅんじ ● 映画監督・小説家・作曲家。宮城県生まれ。横浜国立大学教育学部卒業。1995年『Love Letter』で劇場用長編映画デビュー。以後、代表作として『スワロウテイル』『リリィ・シュシュのすべて』など。小説では『リップヴァンウィンクルの花嫁』『ラストレター』など。東日本大震災の復興支援ソング『花は咲く』の作詞も担当。2020年映画『8日で死んだ怪獣の12日の物語』『チイファの手紙』を公開。

紙との出会いも生まれていた。段ボールである。通販を使えば否応なく段ボールがやって来る。

ボール紙で作られている箱もある。

『8日で死んだ怪獣の12日の物語』は緊急事態宣言中の五月に撮影した作品である。物語に出てくる小さな手のひらサイズの怪獣たちは自分の手作り。デリケートな細工だったので、主演の斎藤工さんのお宅まで自分で運んでお届けした。十二匹の怪獣を入れる箱は通販の段ボールを利用した。間仕切りはボール紙を切って作った。久しぶりにハサミを使った。楽しい。子供時代を思い出す。

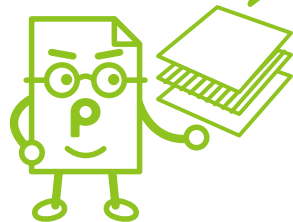
いつでも身近にある紙だが、最近ではストローにもなっている。

紙は人の生活様式の移ろいに翻弄されながらも、文句も言わずに静かに私達を支え続けてくれている。有り難い存在である。

ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

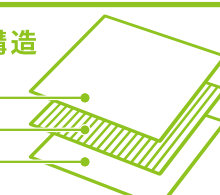
段ボールは、「3」がカギ。

1本ではもろい矢も、3本あわせれば強くなる。段ボールだってそうなんです。ライナと呼ばれる2枚のボール紙と、その間に入っている中しんと呼ばれる波形のボール紙。この3枚で支えあうことで、紙とは思えないほど頑丈に。なんと重さ1t以上のクルマを、段ボール4つで支えられるほどなんです。



段ボールの基本構造

- ボール紙/ライナ
- 波形ボール紙/中しん
- 接着面



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

<http://kamitsubu.com/>

今回は10月29日号、木梨憲武さんです。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

Photo : Shiro Miyake